

平成28年度（平成27年度実施分）個別施策評価シート

① 文教厚生委員会

評価する個別施策	保育サービスの充実 ・待機児童を発生させないため、定員の見直しを始め、民間保育所と連携し、保育園の適正な配置、運営に努めます。 ・多様なニーズに対応するため延長保育、一時預かりの充実、病児保育の実施を図ります。
----------	--

項目別評価 ※評価欄の該当項目に○印を付け、判断理由・評価コメント欄は必ず記入してください。

評価項目	評価基準			判断理由・評価コメント	
	点数	チェック	評価点		
個別施策の実現に向けて順調か	概ね順調	76～100		65	「順調に進んでいる点」 子ども・子育て支援事業計画に基づいて進行しており、多様な事業を展開している。
	どちらかといえば順調	51～75	○		「遅れている点」 低年齢児の待機児童発生や、兄弟姉妹が異なる保育園の通園を強いられるなどが課題である。
	どちらかといえば遅れている	26～50			「その他コメント」 無し
	遅れている	0～25			
構成する事務事業は、個別施策を実現するために有効か	個別施策実現のために必要な内容が不足していないか			不足している。 ・低年齢児の待機児童発生を防ぐ対策が不足している。 ・待機児童発生の将来動向や、兄弟姉妹の同一園への通園を考慮した希望などの、正確なニーズ把握と予測ができていない。	
	無駄な事業・内容はないか (不要な事業、類似事業を含む)			無し	
	その他コメント			正確なニーズが掴めていないために、年度途中の待機児童が発生することになっている。また、将来の施設整備を含めた受け入れ体制構築のためにも、正確な保育ニーズの把握が非常に重要である。	
施策の今後の方向	注力すべき事業・内容はあるか。どのように改善するか (事業自体はあるが、改善すべき内容を記載。委託も。)			・正確なニーズを調査・把握し、対策を図るべき。 ・ニーズは常に変動すると認識し、子ども・子育て支援事業計画の見直しも含め、柔軟に対応すべき。	
	追加すべき事業はないか (事業自体無い、あるいは、不足している内容を記載)			・子育て支援事業等と連携し、例えばファミリーサポートの活用・利用改善をすることにより、保育ニーズに総合的に対応する体制を整えるべき。 ・兄弟姉妹が同一保育園に通園できるように、例えば、他の保護者に転園をお願いするなど、保護者間の調整に努力してはどうか。	
	廃止すべき事業・内容はあるか			無し	
	その他コメント (不要だが廃止しない場合の理由、などを記入)			無し	
その他コメント	ニーズ次第では、特定地域型保育事業の他の地域への拡充も含め、検討する必要があると考える。				

平成28年度（平成27年度実施分）個別施策評価シート

② 文教厚生委員会

評価する個別施策	地域社会への参加の促進 ・老人クラブやシルバー人材センターの活性化を図り、地域活動や就業による地域社会への高齢者の参加を促進します。
----------	--

項目別評価 ※評価欄の該当項目に○印を付け、判断理由・評価コメント欄は必ず記入してください。

評価項目	評価基準			判断理由・評価コメント	
	点数	チェック	評価点		
個別施策の実現に向けて順調か	概ね順調	76～100		35	「順調に進んでいる点」 幅広い人を対象に多様な事業があり、概ね取り組んでいる。
	どちらかといえば順調	51～75			「遅れている点」 地域社会への参加の促進に効果的な事業が行われていない。
	どちらかといえば遅れている	26～50	○		「その他コメント」 無し
	遅れている	0～25			
構成する事務事業は、個別施策を実現するために有効か	個別施策実現のために必要な内容が不足していないか			不足している。 ・地域社会の活動に参加を促すための効果的な事業が行われていない。 ・新しく地域活動への参加者を増やそうとする職員の意識が足りていない。	
	無駄な事業・内容はないか (不要な事業、類似事業を含む)			無し	
	その他コメント			無し	
施策の今後の方向	注すべき事業・内容はあるか。どのように改善するか (事業自体はあるが、改善をすべき内容を記載。委託も。)			・老人クラブやシルバー人材センターの活性化、チラシのPRだけでは高齢者の参加の促進は見込めないため、新しく地域社会に参加する人を増やすための方法を抜本的に見直し、戦略的に考えるべき。 ・例えば、民生委員からの声かけによる協力や、国保の切り替え時に退職者を地域活動団体に繋ぐ等、人と人とのコミュニケーションから勧誘できる仕組みづくりをすべき。 ・行政職員は、地域社会へ高齢者の参加を促進する取り組みを行うよう、意識改革が必要。	
	追加すべき事業はないか (事業自体無い、あるいは、不足している内容を記載)			・地域活動に参加したいと思う人が、どのようなことを取り組みたいか(ニーズ)、なぜ参加しないか等アンケート調査・分析をすべき。	
	廃止すべき事業・内容はあるか			無し	
	その他コメント (不要だが廃止しない場合の理由、などを記入)			無し	
その他コメント	地域での活躍の場を見つけてもらうための「セカンドライフフェスタ」を、高齢者の地域への参加の促進を図る場として積極的に活用するため、所管する市民協働課と協議してはどうか。				

平成28年度（平成27年度実施分）個別施策評価シート

③ 文教厚生委員会

評価する個別施策	地域の特性を生かした地区公民館の運営 ・幅広い世代が利用し、地域の課題を解決する拠点として活用するため、運営方法などの調査・研究を進めます。
----------	--

項目別評価 ※評価欄の該当項目に○印を付け、判断理由・評価コメント欄は必ず記入してください。

評価項目	評価基準			判断理由・評価コメント	
	点数	チェック	評価点		
個別施策の実現に向けて順調か	概ね順調	76～100		30	「順調に進んでいる点」 地区公民館ふれあい事業は、実績値として一定の参加者数を得ている。
	どちらかといえば順調	51～75			「遅れている点」 公民館は地域の課題を解決する拠点であると当局は位置づけているが、拠点として活用しようとする取り組みが見て取れない。生涯学習の観点が強く、慢性的な取り組みが多いと感じられ、運営方法の十分な調査研究がされていない。
	どちらかといえば遅れている	26～50	○		「その他コメント」 無し
	遅れている	0～25			
構成する事務事業は、個別施策を実現するために有効か	個別施策実現のために必要な内容が不足していないか			無し	不足している。 公民館運営において、「地域の課題解決の拠点として活用すること」に対する行政職員の意識が低く、そのための調査・研究がなされていない。
	無駄な事業・内容はありますか (不要な事業、類似事業を含む)			無し	無し
	その他コメント			無し	無し
施策の今後の方向	注力すべき事業・内容はありますか。どのように改善するか (事業自体はあるが、改善すべき内容を記載。委託も。)				・調査研究の中で、地域の課題解決に向けた取り組みに関する事項を重点事業の一つとすべき。
	追加すべき事業はないか (事業自体無い、あるいは、不足している内容を記載)				・行政職員は、地域の課題解決の拠点として活用するという意識を持ち、その上で公民館長・主事に協力を求めるべき。
	廃止すべき事業・内容はありますか				無し
	その他コメント (不要だが廃止しない場合の理由、などを記入)				無し
その他コメント	公民館が設置されてきた頃と時代背景は大きく異なり、生涯学習の場は多様化している。総合計画には「地域の課題を解決する拠点として活用するため、運営方法などの調査・研究を進めます」としており、決算審査の場でも、地域の課題を解決する拠点と位置付けることを当局に確認しているが、事務事業評価でこのことが全く触れられていない。利用状況の分析、地域のニーズ調査を行った上で、これからの公民館の在り方について、議論も必要と考える。				